

## 議事概要

※第 268 回長期評価部会（令和 6 年 2 月 22 日（木）開催）の議事概要より、「日本海側の海域活断層の長期評価 一兵庫県北方沖～新潟県上越地方沖一（令和 6 年 8 月版）」に関する部分を抜粋。

### 出席者

部会長	岡村 行信	国立研究開発法人産業技術総合研究所 地質調査総合センター活断層・火山研究部門名誉リサーチャー
委員	伊藤 弘志	海上保安庁海洋情報部技術・国際課海洋研究室上席研究官
	奥村 晃史	国立大学法人広島大学名誉教授
	佐竹 健治	国立大学法人東京大学地震研究所教授
	宍倉 正展	国立研究開発法人産業技術総合研究所地質調査総合センター連携推進室 国内連携グループ長
	鈴木 康弘	国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学減災連携研究センター教授
	都司 嘉宣	四万十市地震・津波対策アドバイザー／国立研究開発法人建築研究所 国際地震工学センター特別客員研究員
	堤 浩之	同志社大学理工学部環境システム学科教授
	藤原 広行	国立研究開発法人防災科学技術研究所研究主監 マルチハザードリスク評価研究部門長兼務 先進防災技術連携研究センター長兼務
	堀 高峰	国立研究開発法人海洋研究開発機構海域地震火山部門 地震津波予測研究開発センター長
	山崎 晴雄	首都大学東京（現 東京都立大学）名誉教授
	矢来 博司	国土地理院地理地殻活動研究センター地理地殻活動総括研究官
	吉田 康宏	気象庁地磁気観測所長
専門家	森川 信之	国立研究開発法人防災科学技術研究所 マルチハザードリスク評価研究部門主任研究員
説明者	近藤 久雄	国立研究開発法人産業技術総合研究所地質調査総合センター 活断層・火山研究部門活断層評価研究グループ主任研究員
事務局	郷家 康德	文部科学省研究開発局地震・防災研究課長
	重野 伸昭	文部科学省研究開発局地震・防災研究課地震調査管理官
	佐藤 壮紀	文部科学省研究開発局地震・防災研究課地震調査研究企画官
	岩切 一宏	気象庁地震火山部地震火山技術・調査課調査官
	松尾 健一	国土地理院測地観測センター火山情報活用推進官
	上野、熊谷、木村	（文部科学省 研究開発局地震・防災研究課）

■ (地震予知総合研究振興会※)

※委託事業「地震調査研究推進本部の評価等支援事業」の受託者

#### —海域活断層評価手法等検討分科会の審議状況について—

事務局（熊谷）：(参考資料2に基づき説明)

岡村部会長：ただいまの報告について、ご質問やご意見等あればお願いします。

都司委員：日本海南東部（仮称）というのは、具体的には何県の沖合になるのか。

事務局（熊谷）：兵庫県から石川県沖の範囲であり、兵庫県、京都府、福井県、石川県の沖である。

都司委員：承知した。その場合、令和6年能登半島地震の海域を含んでいると理解して良いのか。

事務局（熊谷）：その通りである。

都司委員：了解した。

岡村部会長：海域名称については以前からもご意見をいただいております。現在、検討中である。また、日本海南東部（仮称）の海域活断層の評価及び公表の方針については、本日、説明と議論の時間を設けている。

#### —日本海南東部（仮称）の海域活断層の評価・公表方針—

岡村部会長：日本海南東部（仮称）の海域活断層の評価・公表方針に関して、事務局より説明いただく。

事務局（佐藤）：(参考資料4に基づき説明)

岡村部会長：ただいまの説明について、ご意見やご質問等があればお願いします。

鈴木委員：強震動予測は自動的に行われる流れになるのか。どの程度揺れるのかというのが、一般の方が知りたい情報だと思う。

事務局（重野）：確率論的地震動予測地図の方は、確率を付与するため、発生確率が評価された段階で公表されることになる。シナリオ地震動予測地図に関しては、地震の発生源が特定できれば計算可能である。公表方法については、今後検討していくことになるかと思う。

鈴木委員：もう一点、やはり影響の大きい断層から急いで公表する必要があるように思える。具体的には陸域に近い断層について、連動性も考慮した形で公表しなければならないと考える。機械的ではない判断が必要となるが、そういったセンスは入れられそうか。

事務局（佐藤）：今日の報告には入っていないが、日本海南東部（仮称）に関する分科会の審議はかなり進んでいる。今回、活動を起こしたと考えられる能登半島沖の活断層についても、評価はある程度、固まりつつある。現在の進捗状況から見ると、影響度が高いものも含め、最初の公表時に含めることができるかと考えている。

鈴木委員：沿岸部等では調査が難しく、良く分かっていないところがあるという話にも触れざるを得ない。そういった現状のデータの限界についても、併せて説明する必要があるのではないか。

事務局（佐藤）：ご指摘の通りである。今回、評価文を確定する前に公表することになるが、それでも使ってもらえる場合があるのではないかとこの観点から、このような方針を提案している。ある程度のエクスキューズを付けた上での公表になる。



事務局（佐藤）：トレースが決まったところも含め、発生確率や評価文は積み残しになる。また、この海域の全ての活断層のトレースを公表できるかは、今後の分科会での審議状況次第である。現時点では、トレースが全て公表されるとは確言できない。

佐竹委員：了解した。状況について良く理解することができた。

都司委員：1802年の地震で佐渡南端、小木では最大で2mの隆起があったとされている。これだけ隆起量の分布が分かっているならば、この元になった断層は特定できる筈であるが、この地震がどの断層の活動に相当するののかということは評価対象に入っているのか。

岡村部会長：佐渡で隆起しているため佐渡の陸地近くの断層になると思うが、この評価の区域内には入っていない。次の評価区域になる。

都司委員：能登半島地震の東端に位置しており、気になったため申し上げた。

堀委員：長期 267 参考資料 5 p. 20 では、陸域活断層の方は評価済みのトレースだけが描かれていることになるが、今後の検討結果によっては、評価済みのものに加えて審議中のトレースも公表する可能性があるということなのか。

事務局（ ）：ここで表示されている断層トレースは、審議済みではあるがまだ公表されていない近畿地域のトレースが含まれている。青い線は、近畿地域で公表する筈の既に決定されたトレースである。

事務局（佐藤）：（画面を指しながら）ここが の海域延長部であるが、 活断層分科会で審議し、確定したトレースをこの図では表示している。この図をそのまま公表するのか、それとも公表済みのものにエクスキューズを付記するのかについては、今後、検討させていただきたい。

堀委員：

事務局（佐藤）：その通りである。

堀委員：了解した。

以 上